

講義名	中国語 A			授業形態	
担当教員	森 宏子	開講期・曜日・時限	後期 月曜日 1 時限		
		単位数	2	履修開始年次	1 年生

主題と概要

この授業では中国語の基礎を学びます。
中国語はよく「発音よければ半ばよし」と言われます。発音が命といっても過言ではありません。中国語学習の最初の目標は、正しく発音ができ、聞き取れ、ピンイン（中国語音のローマ字表記）がきちんとならば、発音を大事にしないということがよく見られます。それでは中国語を真にマスターすることはできません。中国語を音でキャッチし、理解できるようになりたいものです。
テキストでは基本的で活用度の高い表現を学びます。半年の学習でも、けっこう使える言い回しを学ぶことができます。本学には中国からの留学生がたくさん在籍しており、中国語がいつでも使える恵まれた環境にあります。学んだ中国語をどんどん使って、留学生と積極的に交流してほしいと思います。
中国語Aと中国語Bは、どちらも同じレベルの授業（入門クラス）です。どちらを履修してもかまいません。

到達目標

1. 中国語学習を進めていく上での基礎的知識（発音、ピンイン表記）を身につける
 2. 平易な中国語を聞き、質問や状況に応じた応答ができるようになる
 3. 平易な文の意味を理解でき、書くことができるようになる
- 中国語検定試験のレベルを目安とすると、準4級～4級レベルの中国語に相当します。検定試験準4級から4級にチャレンジできる力をつけます。

提出課題

とくに課題は予定していません。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

出席確認を兼ねて小テストを行うことがあります。小テストは返却しませんが、次回の授業で講評します。中間試験は返却した上で、講評します。

評価の基準

次の点を総合的に判断します
平常点（出席状況、受講態度） 20%
中間試験と期末試験 80%

履修にあたっての注意・助言他

1. 必ず教科書を購入して授業にのぞんでください。受講態度として評価の対象になります。
2. 新型コロナウイルス感染症の感染者や、濃厚接触者に指定され一時的に通学が禁止となった学生には、別途個別に対応します。

教科書	. はじめよう楽々中国語 .	白水社	小林和代・韓軍	2200	9784560069387
-----	----------------	-----	---------	------	---------------

参考図書

その他

必要に応じて配布します。

授業計画

1. 授業ガイダンス、第1課：発音練習 声調・母音
2. 第2課：子音・複合母音・鼻母音
3. 第3課：何月何日？/何時？
4. 第4課：お名前は？/どちらの大学？
5. 第5課：だれ？なに？/これは～です
6. 第6課：いる/ある
7. 中国テキスト
8. 第7課：どこにいる？/AそれともB？
9. 第8課：どれくらいかか？/～するのが好きです
10. 第9課：いくら？/Aはより～です
11. 第10課：～したい/どこで？
12. 第11課：～できる？/～していい？
13. 第12課：～している/～したことがある
14. 調整日
15. 調整日

授業の進度は受講生の習熟度に応じて調整します

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけれども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

【予習】
新しい課に入る時は、事前に単語帳（ワークシート）を配布します。単語帳を自宅で作成させてください。次の授業で学ぶところに目を通し、分かるところと分からないところを、明確にしておいてください。テキスト付属のCDを聞き、ピンインと実際の音を聞き比べてください。可能であれば、講義を音読してみる。（以上、2時間程度）

【復習】
授業で学んだところを自宅でもう一度「振り返し」を行ってください。ドリルなどの宿題をします。今回学んだポイントの定着を図ります。講義のピンインを手書きし、ピンインを体で覚えます。テキスト付属のCDを聞きながら、講義を読みます（シャドーイング）。（以上、2時間程度）

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

外国語を用いて「人と円滑なコミュニケーションをとることができる」資質・能力を育み、法学部生に求められる「各業界の動向や問題点を理解するための基礎知識」、経済学部生に求められる「人間、社会に関するこれまでの学問的成実の基礎」、人間社会学部生に求められる「日常生活と文化といった現実社会の様々なテーマ」に習熟し「コミュニケーション能力」の育成を目指します。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考